

札幌市産業振興ビジョンの全体構成(案)

第1章 ビジョンの基本的な考え方

背景と必要性

- ・経済・社会環境が大きく変化し、全国的に景気が落ち込む中、北海道・札幌市経済も低迷しており、大変厳しい状況が続いている
- ・本市の経済は、人口の増加に比例して成長してきたが、人口減少時代に突入しようとしている。
- ・そのような変化に対応し、足腰の強い経済基盤を確立する必要がある。
- ・本市経済を取り巻く環境の変化や実体経済の動きを的確に捉え、中長期的な視点から、本市が目指すべき方向や、行政の果たすべき役割を明確ためのビジョンを策定する。

ビジョン期間

平成 23 年度～32 年度の 10 年間

ビジョンの位置づけ

- ・「第 4 次札幌市長期総合計画」の方向性を踏まえた産業振興分野の今後の展開を示したものとする。
- ・本市が別途策定している計画等との整合性をとり、連携を図って産業振興に結びつける。
- ・本ビジョンに基づき、各年度の予算における具体的事業を展開する
- ・産業振興ビジョンは、現時点で想定される 10 年先を見据えた上で策定するが、大きな経済の構造変化が生じた場合は、柔軟にビジョンの内容を改訂する。

基本方針

- 札幌広域都市圏として取り組む
- 北海道経済の牽引役としての役割を明確にする
- 中小企業等の創意工夫と自主的な努力を尊重する
- 産学官連携を促進する
- 国や北海道等関係機関と連携を図る

第2章 札幌市産業の現状・課題

現状分析

1. 人口構造
2. 都市・地域構造(商業核、工業集積地域等)
3. 産業特性(事業所面、生産面等)
4. 歴史的経緯・地域性

課題

1. 人口減少
2. 少子高齢化
3. 若年層の流出
4. ものづくり産業の脆弱性

第3章 札幌市産業の目指す姿

札幌の経済を支えている中小企業が時代の変化に対応しながら、活発な事業展開を通じて、北海道経済を活性化させる札幌広域都市圏を中心に、道内の産業間の結びつきが強まり、世界に躍進する企業が活躍する国内外から人や企業が集まり、活発な交流活動が生まれることにより経済活力が高まる積雪寒冷地といった特性や、北海道が持つ資源を活かした事業活動が展開されるとともに、新たな付加価値が創造される市民生活に直結した産業が振興することで、地域に賑わいを生み出し、暮らしの安全と安心を確保するとともに、豊かな暮らしを実現する

産業振興の最終目的

1. 雇用の場を確保・創出
2. モノやサービスの高付加価値化による企業、就業者の収入増加
3. 税収の増加による市民サービス向上

第4章 施策展開に向けた視点

1. 道内需要の拡大(北海道内経済循環の形成・強化)
 - ・道内企業の取引拡大
 - ・道産品の域内消費促進
2. 道外需要の創出(北海道における外需型産業の育成)
 - ・道外市場の開拓
 - ・観光産業を中心とした交流人口の増加による需要拡大

第5章 施策展開の方向性

1. 社会情勢の変化に対応する

人口減少(市場縮小)への対応

- ・移住・二地域居住
- ・道外、海外の新規市場開拓
- ・新分野進出

少子高齢化への対応

- ・女性・シニア層の雇用機会創出
- ・医療、福祉、健康、生活関連サービス産業の提供

グローバル化への対応

- ・海外戦略

地球環境問題への対応

- ・環境に配慮した事業の展開、創出

2. 北海道・札幌広域都市圏の強み・可能性を活かす

- ・食関連分野
- ・観光関連分野
- ・スポーツ関連分野
- ・文化芸術関連分野
- ・バイオ関連分野
- ・IT関連分野
- ・コンテンツ関連分野

3. ものづくり産業の育成・強化

- ・雇用創出効果が高く、他産業への波及効果も高い分野である、ものづくり産業(製造業、バイオ、IT、コンテンツ)を育成、強化

4. 中小企業の経営基盤強化

- ・人材育成
- ・人材活用
- ・融資・金融相談
- ・経営アドバイス